

授 業 科 目 名	教育の方法と技術(Teaching Methods and Techniques)		
科 目 番 号	9605111	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	春 AB	曜 時 限	木曜・6 時限
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	樋口 直宏(人間系学系棟 B406 号室)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	火曜日 5 限 ほか(事前連絡のこと)		
授 業 の 到 達 目 標	学習指導の原理と方法に関する基礎的知識とともに、授業づくりおよび学習指導案の作成法について習得する。また、授業における情報処理および教材の活用についても学習する。これらを通じて、教育方法学に関する基礎的な知見を習得することを目標とする。		
授 業 の 概 要	授業を構成する要素や、主要な教授法と形態等について研究しながら、教育方法の基礎理論について講義する。具体的には、現場学校の実践例を取り上げながら、授業の設計や実施の方法について考える。また、授業分析、学力に関する理論および教育評価の方法についても学習する。さらにICT教育について、教具・教材ソフト・メディアリテラシー・情報モラル教育等のあり方についても考察する。		
授 業 計 画	第 1 回 資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現) 第 2 回 教育方法の基礎的理論(問題解決学習、系統学習、発見学習) 第 3 回 学習指導の形態(一斉学習、小集団学習と学級集団づくり、個別学習) 第 4 回 指導技術の基礎(話法と発問、話し合い、板書とノート) 第 5 回 教材と学習環境(教材と教具、教科書、教室環境、オープンスクール) 第 6 回 教師の実践的知識(教師の知識研究、授業における教師の意思決定、教授学的信念) 第 7 回 学習指導案(学習指導案の実例および作成) 第 8 回 情報機器の活用(視聴覚教育とメディア、コンピュータを用いた授業実践) 第 9 回 情報活用能力の育成(情報モラル、メディアリテラシー) 第 10 回 教育評価(指導要録と通知表・調査書、ポートフォリオ評価) 定期試験		
成 績 評 価 方 法	・毎回の授業時に、小レポートを課す。(50%) ・出席状況が良好である者に対して、学期末に試験を実施する。(50%)		
テ キ ス ト	樋口直宏・林尚示・牛尾直行(編著)『実践に活かす教育課程論・教育方法論』(学事出版) ※第 1 回授業時の指示を待つこと。		
参 考 文 献	田中統治・大高泉(編著)『学校教育のカリキュラムと方法』(協同出版) 根津朋実・吉江森男(編著)『教育内容・方法』(培風館) 文部科学省『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』(最新版、2017 年) 文部科学省『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』(最新版、2017 年) 文部科学省『高等学校学習指導要領』(最新版)		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	テキストおよび授業中の課題による復習を行うこと。		
受 講 学 生 に 望 む こ と	特定の校種や教科にとらわれず多様な事例を扱うので、柔軟な姿勢で授業に臨んでほしい。		
備 考	旧課程の教育内容・方法論Ⅱに対応。		

授 業 科 目 名	教育の方法と技術(Teaching Methods and Techniques)		
科 目 番 号	9605211	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	通年	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	樋口 直宏(人間系学系棟 B406 号室)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	火曜日 5 限 ほか(事前連絡のこと)		
授 業 の 到 達 目 標	学習指導の原理と方法に関する基礎的知識とともに、授業づくりおよび学習指導案の作成法について習得する。また、授業における情報処理および教材の活用についても学習する。これらを通じて、教育方法学に関する基礎的な知見を習得することを目標とする。		
授 業 の 概 要	授業を構成する要素や、主要な教授法と形態等について研究しながら、教育方法の基礎理論について講義する。具体的には、現場学校の実践例を取り上げながら、授業の設計や実施の方法について考える。また、授業分析、学力に関する理論および教育評価の方法についても学習する。さらにICT教育について、教具・教材ソフト・メディアリテラシー・情報モラル教育等のあり方についても考察する。		
授 業 計 画	第 1 回 資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現) 第 2 回 教育方法の基礎的理論(問題解決学習、系統学習、発見学習) 第 3 回 学習指導の形態(一斉学習、小集団学習と学級集団づくり、個別学習) 第 4 回 指導技術の基礎(話法と発問、話し合い、板書とノート) 第 5 回 教材と学習環境(教材と教具、教科書、教室環境、オープンスクール) 第 6 回 教師の実践的知識(教師の知識研究、授業における教師の意思決定、教授学的信念) 第 7 回 学習指導案(学習指導案の実例および作成) 第 8 回 情報機器の活用(視聴覚教育とメディア、コンピュータを用いた授業実践) 第 9 回 情報活用能力の育成(情報モラル、メディアリテラシー) 第 10 回 教育評価(指導要録と通知表・調査書、ポートフォリオ評価) 定期試験		
成 績 評 価 方 法	・毎回の授業時に、小レポートを課す。(50%) ・出席状況が良好である者に対して、学期末に試験を実施する。(50%)		
テ キ ス ト	樋口直宏・林尚示・牛尾直行(編著)『実践に活かす教育課程論・教育方法論』(学事出版) ※第 1 回授業時の指示を待つこと。		
参 考 文 献	田中統治・大高泉(編著)『学校教育のカリキュラムと方法』(協同出版) 根津朋実・吉江森男(編著)『教育内容・方法』(培風館) 文部科学省『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』(最新版、2017 年) 文部科学省『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』(最新版、2017 年) 文部科学省『高等学校学習指導要領』(最新版)		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	テキストおよび授業中の課題による復習を行うこと。		
受 講 学 生 に 望 む こ と	特定の校種や教科にとらわれず多様な事例を扱うので、柔軟な姿勢で授業に臨んでほしい。		
備 考	旧課程の教育内容・方法論Ⅱに対応。		

授 業 科 目 名	教育の方法と技術(Teaching Methods and Techniques)		
科 目 番 号	9605311	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	夏季休業中	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	早坂 淳(世話人 樋口直宏:人間系学系棟 B406 号室)		
オ フ ィ ス ア ワ ー			
授 業 の 到 達 目 標	学習指導の原理と方法に関する基礎的知識とともに、授業づくりおよび学習指導案の作成法について習得する。また、授業における情報処理および教材の活用についても学習する。これらを通じて、教育方法学に関する基礎的な知見を習得することを目標とする。		
授 業 の 概 要	授業を構成する要素や、主要な教授法と形態等について研究しながら、教育方法の基礎理論について講義する。具体的には、現場学校の実践例を取り上げながら、授業の設計や実施の方法について考える。また、授業分析、学力に関する理論および教育評価の方法についても学習する。さらにICT教育について、教具・教材ソフト・メディアリテラシー・情報モラル教育等のあり方についても考察する。		
授 業 計 画	第 1 回 資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現) 第 2 回 教育方法の基礎的理論(問題解決学習、系統学習、発見学習) 第 3 回 学習指導の形態(一斉学習、小集団学習と学級集団づくり、個別学習) 第 4 回 指導技術の基礎(話法と発問、話し合い、板書とノート) 第 5 回 教材と学習環境(教材と教具、教科書、教室環境、オープンスクール) 第 6 回 教師の実践的知識(教師の知識研究、授業における教師の意思決定、教授学的信念) 第 7 回 学習指導案(学習指導案の実例および作成) 第 8 回 情報機器の活用(視聴覚教育とメディア、コンピュータを用いた授業実践) 第 9 回 情報活用能力の育成(情報モラル、メディアリテラシー) 第 10 回 教育評価(指導要録と通知表・調査書、ポートフォリオ評価) 定期試験		
成 績 評 価 方 法	・毎回の授業時に、小レポートを課す。(50%) ・出席状況が良好である者に対して、学期末に試験を実施する。(50%)		
テ キ ス ト	樋口直宏・林尚示・牛尾直行(編著)『実践に活かす教育課程論・教育方法論』(学事出版) ※第 1 回授業時の指示を待つこと。		
参 考 文 献	田中統治・大高泉(編著)『学校教育のカリキュラムと方法』(協同出版) 根津朋実・吉江森男(編著)『教育内容・方法』(培風館) 文部科学省『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』(最新版、2017 年) 文部科学省『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』(最新版、2017 年) 文部科学省『高等学校学習指導要領』(最新版)		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	テキストおよび授業中の課題による復習を行うこと。		
受 講 学 生 に 望 む 事 項	特定の校種や教科にとらわれず多様な事例を扱うので、柔軟な姿勢で授業に臨んでほしい。		
備 考	旧課程の教育内容・方法論Ⅱに対応。		

授 業 科 目 名	教育の方法と技術(Teaching Methods and Techniques)		
科 目 番 号	9605321	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	夏季休業中	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	花屋 哲郎(世話人 樋口直宏:人間系学系棟 B406 号室)		
オ フ ィ ス ア ワ ー			
授 業 の 到 達 目 標	学習指導の原理と方法に関する基礎的知識とともに、授業づくりおよび学習指導案の作成法について習得する。また、授業における情報処理および教材の活用についても学習する。これらを通じて、教育方法学に関する基礎的な知見を習得することを目標とする。		
授 業 の 概 要	授業を構成する要素や、主要な教授法と形態等について研究しながら、教育方法の基礎理論について講義する。具体的には、現場学校の実践例を取り上げながら、授業の設計や実施の方法について考える。また、授業分析、学力に関する理論および教育評価の方法についても学習する。さらにICT教育について、教具・教材ソフト・メディアリテラシー・情報モラル教育等のあり方についても考察する。		
授 業 計 画	第 1 回 資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現) 第 2 回 教育方法の基礎的理論(問題解決学習、系統学習、発見学習) 第 3 回 学習指導の形態(一斉学習、小集団学習と学級集団づくり、個別学習) 第 4 回 指導技術の基礎(話法と発問、話し合い、板書とノート) 第 5 回 教材と学習環境(教材と教具、教科書、教室環境、オープンスクール) 第 6 回 教師の実践的知識(教師の知識研究、授業における教師の意思決定、教授学的信念) 第 7 回 学習指導案(学習指導案の実例および作成) 第 8 回 情報機器の活用(視聴覚教育とメディア、コンピュータを用いた授業実践) 第 9 回 情報活用能力の育成(情報モラル、メディアリテラシー) 第 10 回 教育評価(指導要録と通知表・調査書、ポートフォリオ評価) 定期試験		
成 績 評 価 方 法	・毎回の授業時に、小レポートを課す。(50%) ・出席状況が良好である者に対して、学期末に試験を実施する。(50%)		
テ キ ス ト	樋口直宏・林尚示・牛尾直行(編著)『実践に活かす教育課程論・教育方法論』(学事出版) ※第 1 回授業時の指示を待つこと。		
参 考 文 献	田中統治・大高泉(編著)『学校教育のカリキュラムと方法』(協同出版) 根津朋実・吉江森男(編著)『教育内容・方法』(培風館) 文部科学省『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』(最新版、2017 年) 文部科学省『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』(最新版、2017 年) 文部科学省『高等学校学習指導要領』(最新版)		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	テキストおよび授業中の課題による復習を行うこと。		
受 講 学 生 に 望 む 事 項	特定の校種や教科にとらわれず多様な事例を扱うので、柔軟な姿勢で授業に臨んでほしい。		
備 考	旧課程の教育内容・方法論Ⅱに対応。		

授 業 科 目 名	教育の方法と技術(Teaching Methods and Techniques)		
科 目 番 号	9605401	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	秋 AB	曜 時 限	水曜・1 時限
対 象 学 群 ・ 学 類	体育専門学群の学生のみ(保健体育科教員免許取得者は可)		
担当教員(連絡先)	宮崎 明世, 小池 関也, 澤江 幸則		
オ フィ ス ア ワ ー	月曜 11:30-12:00、木曜 11:30-12:15(宮崎)		
授 業 の 到 達 目 標	学習指導の原理と方法に関する基礎的知識とともに、授業づくりおよび学習指導案の作成法について習得する。また、授業における情報処理および教材の活用についても学習する。これらを通じて、教育方法学に関する基礎的な知見を習得することを目標とする。		
授 業 の 概 要	授業を構成する要素や、主要な教授法と形態等について研究しながら、教育方法の基礎理論について講義する。具体的には、現場学校の実践例を取り上げながら、授業の設計や実施の方法について考える。また、授業分析、学力に関する理論および教育評価の方法についても学習する。さらにICT教育について、教具・教材ソフト・メディアリテラシー・情報モラル教育等のあり方についても考察する。		
授 業 計 画	第 1 回 資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現) 第 2 回 教育方法の基礎的理論(問題解決学習、系統学習、発見学習) 第 3 回 学習指導の形態(一斉学習、小集団学習と学級集団づくり、個別学習) 第 4 回 指導技術の基礎(話法と発問、話し合い、板書とノート) 第 5 回 教材と学習環境(教材と教具、教科書、教室環境、オープンスクール) 第 6 回 教師の実践的知識(教師の知識研究、授業における教師の意思決定、教授学的信念) 第 7 回 学習指導案(学習指導案の実例および作成) 第 8 回 情報機器の活用(視聴覚教育とメディア、コンピュータを用いた授業実践) 第 9 回 情報活用能力の育成(情報モラル、メディアリテラシー) 第 10 回 教育評価(指導要録と通知表・調査書、ポートフォリオ評価) 定期試験		
成 績 評 価 方 法	・毎回の授業時に、小レポートを課す。(50%) ・出席状況が良好である者に対して、学期末に試験を実施する。(50%)		
テ キ ス ト	樋口直宏・林尚示・牛尾直行(編著)『実践に活かす教育課程論・教育方法論』(学事出版)		
参 考 文 献	田中統治・大高泉(編著)『学校教育のカリキュラムと方法』(協同出版) 根津朋実・吉江森男(編著)『教育内容・方法』(培風館) 文部科学省『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』(最新版、2017 年) 文部科学省『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』(最新版、2017 年) 文部科学省『高等学校学習指導要領』(最新版)		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	学習指導要領の学習と理解、専門書や指導書を購読し、指導計画に必要な教材研究を行う		
受 講 学 生 に 望 む こ と	教育実習に参加する前に指導計画の考え方を身に付けてほしいと考えています。教育実習に望むつもりで積極的に学習に取り組んでください。		
備 考	旧課程の教育内容・方法論Ⅱに対応。		